



CM

神奈川県環境学習リーダー会 会報

No. 29 2002年
10 11月

役員会報告 (事務局長 児玉 勇)

10月役員会 10月28日(月)

11月役員会 11月15日(金)

(2ヶ月間の継続審議が多いため、2回の役員会をまとめて報告します)

- 1 環境実践者養成講座修了生への説明会結果報告:
修了生 28名中、19名が入会。
同時にモニタリング部会 3名、廃棄物部会 7名、エネルギー部会 4名、自然環境部会 2名、広報部 1名の参加希望がなされた。(関係記事 別掲)
- 2 藤沢養護学校交流会の感想と次回の内容について確認(別掲)
- 3 来年度の環境展の準備について: 実行委員会の設立(今年度実行委員長の北村博子さんに再度就任依頼することで打診、了解を得る)
- 4 環境学習と地域への展開についてシステム作りの検討。
地域の担当者の募集と講師登録について本号でメンバーの意向を打診することを決定。(別掲・別添)

カット: ソナレマツムシ

三浦半島相模湾側の磯浜で初めてソナレマツムシを見ました。
信州の夏の草原を彩るマツムシソウの仲間で、「ソナレ」は「磯馴」の意。
ススキやハマボウスの群れの中で数えられるほどの株しかありません。
淡むらさき色のやわらかな花びらを風に揺らして、ずっと立っていました。
花期は10月。

- 5 NPO 法人環境学習研究会(ecok 東京)の活動状況を把握することを決定し、11月13日に5名で往訪して、その結果を報告。(次号に掲載)
- 6 相模湖町環境イベント:
相模湖町から依頼のあった環境イベントの企画・運営の協力について6月の環境展に参加した部会・グループを中心に実行委員会を結成、積極的に取り組むことを確認。(別掲)
- 7 市民環境活動報告会(2月23日)発表者の応募状況を説明、8枠の発表者と基調講演者の推薦者をあげて、実行委員会に諮ることを決定。(関係記事 別掲、詳細案内 次号)

新しい仲間を迎えて 会員数 200 名を突破しました



代表 清水 幸夫

新しい仲間の皆さん、講座の修了おめでとうございます。修了生 30名のうち、入会のお誘いをした修了式の日に参加して戴くことができ、会員数 202名の大きな団体となり、役員の一員として、その責任の重さを改めて感じております。これから、あたらしい仲間の皆さんを、K・リ・ダ・会 10期生としてお迎えすることになっていますので、よろしくお祈いします。

10期生の皆さんには、既に地域で活動されている方や専門分野で活躍されている方も多いかと思いますが、当会は5つの専門部会があり(既に入会していただいた方もおられます)地域活動への支援体制も整いつつあります。また、これからじっくり何かやろうと考えておられ方は、会報やEメールや当会の催しに積極的に参加して戴いて、先輩がたの活動をみながら気楽に参加していただくのも良いですし、新しい分野を提案され、行動することも一つの方法かとも思います。これからは、地球規模で考え

て、地域でできることから行動することが大切と考えますし、地域に根ざした環境活動を通じて神奈川県環境保全に力を併せて頑張りましょう。

このK・リ・ダ・会は、初期の頃の、情報交換や親睦団体から抜け出し、最近では、環境活動分野での知名度もあがり、市町村の環境活動への支援、環境展示会、各種の環境教室の催し、環境学習アドバイザーなど活動の機会も広がってきています。

また、本会の特徴として、会員が神奈川県全域におられること、人材としているんな分野の専門家がおられること、県の環境科学センターで教育を受けた意欲のある集団であることなどを挙げる事ができます。現在、これらを機能的に生かすための努力をしていますが、新しい皆さんの力を借り、さらに行動力のある環境団体をめざし、文字どおりの神奈川県環境学習リーダー会としての役割を果たしたいと願っています。

相模湖町で「親子で考える環境展」

K・リーダー会が企画・運営に協力

事務局長 児玉 勇

今般、会報送付先の相模湖町より同町の環境イベントの開催について相談があり、その企画・運営に協力することになり、下記の通り開催することとなりました。

1. イベント名：相模湖町「親子で考える環境展」
2. 開催日時：平成 15 年 1 月 26 日（日）
10：00～16：00
3. 開催場所：県立相模湖交流センター
（JR相模湖駅 徒歩 10 分）
4. 内容：（抜粋）
 - ・基調講演（ペオ・エクベリ氏「地球の環境と私たちの暮らし」仮称）
 - ・事例報告（水源地相模湖の環境保全 報告者「森づくりの会」）

- ・展示・体験コーナー（当会で 6 月実施した「環境展」に準じる）
 - ・環境パネル展
- 現在、部会・関係グループをお願いして準備中です。
- 展示・体験教室に参加希望のグループ、またサポーターで参加希望の方、至急、事務局までご連絡ください。



もっともっと広げたい 環境学習アドバイザーの夢

9 期 柳川 三郎

「私の夢」

1. どのような人と新しい輪が出来るだろうか！
2. アドバイザーの仲間と新しい交流はどんなふうに広がるだろうか！
3. 神奈川県環境農政部環境計画課の人から知識を学べるだろうか！
4. 相談に来てくれた人と目がしっかりあって終わりの時に満足の笑顔が生まれるだろうか！
5. この機会に私も新しい知識が身につくだろうか！

私は以上の 5 つの夢をスタートして 7 ヶ月たった今、どの位置のステップなんだろうか！と振り返っています。

私が環境学習アドバイザーをやらせていただいているのは、神奈川県環境科学センターの 1 階フロアで日曜日の朝 10 時～午後 4 時迄です。日曜日毎に神奈川県環境学習リーダー会の内藤克利氏・齋藤美代子氏と 3 人でローテーションを組んでいます。

「夢の道のり」

- * ある時小学生が 5 人元気に相談にきてくれ、小学生と机をかこんで総合学習に取り組みたいと

の熱意がひしひしと私に伝わり、私の説明を小学生は熱心にノートしてくれ、小学生は繰り返し質問をし、快活に帰っていった。

- * アドバイザーの仲間とは志を共にする良き知己である。こらからも春夏秋冬がんばっていきける様^{さま}となっています。
- * 神奈川県職員の、特に担当者の必死な業務取組は大いなる励みとなっています。
- * 相談に来てくれた人と最初の 10 分、次の 10 分、その後、人柄を理解してからの相談時間をより充実を図るように努力して、なんとか和やかなムードを作りたい思いですが、これがなかなか厳しい事と実感中です。
- * 私の新しい知識、大気汚染について（ 窒素酸化物 硫酸酸化物 浮遊粒子状物質 ダイオキシン 有害大気汚染物質等）を最近学んでいます。

「みなさんへお願い」

日曜日、神奈川県環境科学センターには必ずリーダー会の仲間がいます。この間、5 期の人が自転車でお見えになり沢山の話をしました。

みなさんもぜひおいでください。センターでお会いしましょう。

お待ちしております。



藤沢養護学校 交流会終わる！ 延べ42名が参加

事務局長 児玉 勇

前号で案内した藤沢養護学校との「環境」を通じての交流会が無事終了いたしました。

第1回（9月27日）リーダー参加者8名

朝からの雨で、急きょ、公園清掃の予定を変更して室内で牛乳パックでの紙漉きを行いました。

子ども達（中学生21名）とののはじめてのふれあいと、講師の「山田さん式紙漉き」と「ケナフ部会式紙漉き」で少々混乱しましたが、いつの間にか全員が一枚ずつのはがきを作り上げました。



牛乳パックでの紙漉き

第2回（10月25日）リーダー参加者11名

天気にも恵まれ厚木市三川合流点にスクールバスで向かい、透視度計で水のにごり具合を確認後、交代で川に入り、採取したサワガニ・エビ・シマイシビル等に歓声を上げました。

全員で昼食をとり、ごみ収集を行い、厚木駅までの手をつないでの行進で子ども達との一体感が芽生えた1日でした。

第3回（11月12日）リーダー参加者14名

朝、平塚は豪雨、横浜は快晴で混乱しましたが、鵜沼海岸での校外学習「調べてみよう・海」を決行。

スクールバスで鵜沼サーフビレッジに向かう途中も晴れたり降ったりの空模様で、結局、午前中はビレッジ内で風船バレーや椅子取りゲームで交流会。

昼食後、やっと雨は上がったものの横殴りの風の中、子ども達は漂流物、リーダーはごみを収集して、その成果を皆で発表しあいました。

天気に左右された一日でしたが、子ども達との連帯感は一段と深まりました。

第4回（11月28日）リーダー参加者8名

最初から天気に影響のない室内の「ペットボトルでリサイクルを考えよう」。今までの反省を踏まえ、時間前に入念に授業内容を確認しあった結果、ちょっとむずかしいと思われた「剣玉作り」も順調。

子ども達の個性もわかって余裕の交流。又、子ども達も懐いてくれるようになり、最後の発表会は全員が感激の面持ち。

以上のように回を追うごとに、子ども達との連帯感が生まれ、リーダー参加者としては新しい視点・心の持ち方を学ぶことが出来たようです。

「環境とは」は必ずしも十分に通じなくとも、子ども達には「ごみを捨ててはいけない」「物を大事に使おう」と言うエチケット段階の範囲の中では感じてもらうことが出来たと思えるし、それ以上に参加したリーダー自身が「共生」の原点に触れることが出来た交流会でありました。

最初から企画・運営に協力戴いた地元藤沢の渡邊・岩下さん、相模原から早朝に来て水生生物を採取してもらった小林さん、室内授業を2回も引き受けていただいた山田さん、有難うございました。



採取した水生生物の発表

お願い！ 地域担当の募集と環境学習 の講師・企画員の登録

今年度のK・リーダー会の活動方針の展開のために、皆さんから地域担当者の募集 環境学習の講師・企画員の登録を実施することといたしました。本件の主旨・皆さんの意向打診は本号に回答用紙つきで同封していますので、前向きに協力をお願いいたします。

= 豆知識のページ =

海をつくる会

今年の10月20日横浜の山下公園で海のごみを拾う「第22回山下公園海底清掃大作戦」が行われました。これを主催したのが県内のダイバーの集まり「海をつくる会」で、約270名のボランティアが参加し、約1.5トンのごみが集められました。

この「海をつくる会」の活動について坂本事務局長にお聞きしました。

会の設立された経緯

1980年代はスクーバダイビングの成長期といわれた時代で、ダイビングスポットでのダイバーの人数は毎月多くなり、それに比例してごみと生態系の破壊が問題視されるようになりました。そこで、ダイビングショップがマナー向上を目的としたダイビングマニュアルを作成し、生態系の保護とごみ持ち帰り・清掃活動を開始しました。そして、横浜で身近な海を大切にしたいと願ったダイバー集団が、1981年「海をつくる会」を発足させました。

メンバーの紹介

現在、会は一般会員37名、特別会員5名、家族会員4名で構成されています。一般会員は年会費3千円、特別会員(歴代の会長など)は会費無料です。また、家族会員はイベントでのお手伝いをします。

【主要メンバーのプロフィール】

[伊藤徹雄会長]

第4代会長、北海道出身。上京してから海が好きになり、いつのまにか会長に。最近の仕事(システムエンジニア)の関係で中国に行きっぱなし。

[鈴木太郎副会長]

家業のホテルを手伝いながら2度目の大学生活を過ごす若手の副会長。無類の釣り好き。

[坂本昭夫事務局長]

1982年より活動する会の古参メンバー。途中、仕事で10年間海外駐在するが、この間山下公園海底清掃には必ず参加した、熱心な山下公園ファン。積極的に活動範囲を拡大したため1年中、土日は海に潜っている。

活動状況

1) 山下公園海底清掃

1981年から始められた会として最も大きなイベントの一つで、今年まで毎年欠かさず山下公園の海底清掃をダイバーたちが中心になって行ってきまし

た。この大作戦に参加したボランティアは100~450名に及び、1~5トンのごみが集められ山下公園の海底がきれいになっています。集められたごみはさまざまですが、圧倒的に多いのは飲料缶で、次いで、ペットボトルやカードなどです。変わったところではカメラ、財布、腕時計などがありました。



2) その他の活動

例年、芦ノ湖や河口湖の海底清掃を主催したり、東京ベイ・クリーンアップ大作戦(お台場) オールクリーンアップ野島、海辺の生物ふれあい広場、鶴見川いかだフェスティバルなどいろいろなイベントに参加しています。

これらの熱心な環境ボランティア活動に対し、1984年横浜市中ロータリークラブ環境美化功労賞、1990年運輸省第2港湾建設局長賞、1996年環境長官賞など数々の賞を受賞しています。

今後の活動予定

会のコンセプトは、1) 身近な海を大切に、2) 継続は力、3) 出来ることから、です。水環境に関するイベントは出来る限り参加し、ダイバー集団として本当の「出来ること」を見つけていきます。

会は清掃活動、子どもを交えた自然観察会など水環境改善活動を主軸としており、今後も継続して活動の拡大を行います。

具体的な活動として、みなとみらいの日本丸の脇で、子どもたちがワカメを植栽し、ワカメの成長と水環境の改善を記録する「夢ワカメ・ワークショップ」や毎月第3土曜日金沢八景の野島公園で陸上・海中で観察する「野島定点観察」など実施します。

会員募集と連絡先

ダイビング初心者大歓迎、一緒に海をきれいにしましょうと会員を募集しています。

[連絡先]

〒221-0852 横浜市神奈川区三ツ沢9-3

坂本昭夫

Eメール a-sakamo@taiun.co.jp

TEL/FAX 045-313-6160

(広報部 木本 光昶)

県の環境行政

環境への負荷が少ない市民生活を促進するための県の活動

ライフスタイルを転換して環境への負荷が少ない市民生活をするのが求められています。去る10月には「環境にやさしい買い物キャンペーン」が県の主催で行なわれました。このキャンペーンのような市民のライフスタイルの転換を促進するための環境活動として、県はどのようなことを行っているのかを県の担当部署にお聞きしました。

担当部署は環境農政部 環境計画課 環境管理班（松浦副主幹、白浜主事、TEL 045-210-4057）です。

環境への負荷が少ない生活や事業活動を促進するために、県は今年度も種々の活動を行っています。その中には、市民生活に関わりの深いものとして、下記の事項があります。

広報部の注：下記以外にもあるが、紙面の都合上から省略する。

環境情報コーナー

県民に対する環境情報提供と市民団体等からの環境情報提供（会報・チラシ等の収集）という双方向の情報提供により、パートナーシップによる環境活動推進を主目的として、次の活動を行っています。

1) 環境に関する資料の配架

- ・環境に関する図書、県資料の配架（自由に閲覧出来、一部貸し出しも行なっています。また、新しい図書を今年追加しました）
- ・市民団体等の会報・チラシの配架（自由に閲覧出来ます）
- ・県民サポートセンター11階と環境科学センターに配架

2) 環境情報相談係りの配置

- ・環境情報コーディネーターによる環境情報の提供と相談への対応
毎水曜（13時～18時）に県民サポートセンター11階に配置
- ・環境学習アドバイザーによる環境学習情報の提供と相談への対応
毎金曜（13時～18時）県民サポートセンター11階、毎日曜（10時～16時）環境科学センターに配置

電話 県民サポートセンター11階
045-312-1121（内）4113
環境科学センター
0463-24-3311（代）

こどもエコクラブ

子どもたちの環境への関心と理解を深めるために多くの『こどもエコクラブ』が結成されています。そのクラブの活動を支援することを主目的として、次の活動を行なっています。

- 1) こどもエコクラブへ活動情報、環境情報を提供
- 2) こどもエコクラブ県内交流会の開催
・今年は8月に厚木市で開催
- 3) 壁新聞の展示
・今年は、こどもエコクラブが作成した壁新聞（水関係）を11月に横浜で開催された「水源環境」全国シンポジウムで展示

広報部の注：『こどもエコクラブ』は環境省が県・市町村と連携して環境教育・環境学習を支援する事業であり、小・中学生なら誰でも参加できる環境活動クラブ。学校や近所の仲間をメンバーとし、先生や親などがサポーターになってクラブを作り、市町村に登録し、環境活動に自由に取り組む。また、各クラブでは、1年間の活動報告として、壁新聞を作成している。県内には約200のこどもエコクラブがある（平成14年11月現在）。

環境にやさしい買い物キャンペーン

毎日の買い物を通して一人ひとりが地球環境問題や廃棄物問題を考え、ライフスタイルを見直し、環境にやさしい生活を実践するきっかけを作ることを主目的として、『環境にやさしい買い物キャンペーン』を10月に実施しました（毎年10月に実施）。

このキャンペーンは県内の企業、商店街、スーパー、百貨店、コンビニ等と連携して行ない、次の内容を含んでいます。

- ・エコ商品（および環境ラベル、環境情報）のPRとエコ商品購入の推奨
- ・買い物バッグ使用の促進
- ・簡易包装の推進
- ・環境家計簿の普及
- ・キャンペーン広報ポスターの掲示
- ・チラシ（環境にやさしい商品の購入）の配付
- ・買い物意識アンケートの実施

このキャンペーンの一環として、今年は県内5ヶ所でイベントを行ないました。このイベントは土曜日曜にもかかわらず、その会場へ県職員が赴いてアンケートを実施すると共に県民と直接会話をしながら、環境にやさしいライフスタイルの普及啓発に努めました。

広報部注：エコ商品に表示される各種環境ラベルは当会報の前号を見て下さい。

（広報部 羽生田 洋啓）

部会活動

環境モニタリング部会

部会長 佐伯 秀夫

活動報告(10・11月)

1. ジョロウグモ調査活動

- ・調査期間：9月中旬～11月中旬
- ・未提出の調査済みデータについて：マッピングしてホームページに掲載しますので環境科学センターへ送付して下さい。
- ・ツバメについてもマッピングしますので、未提出のデータがありましたら、同センターへ送付して下さい。

2. 酒匂川探水活動

1) 9月22日(日)

- ・主として開成町、川音川について調査

2) 10月6日(日)

- ・文明用水路、立花学園周辺について調査
- ・台風後の増水、濁流での調査になったが、かなりの成果が得られた

3) 10月26日(土)

- ・主として四十八瀬川、菖蒲地区について調査
- ・四十八瀬川上流地点でシマイシビルを見つけた

3. リーダー会の部会ホームページに第2集、第3集を掲載

1) 第2集

- ・平成14年6月NO₂測定調査“環境マップ”改訂版
- ・同上常時監視測定局測定実績“環境マップ”2)第3集
- ・部会関係「子ども環境体験教室」実績報告

活動予定(11～1月)

1. ジョロウグモ調査活動

- ・調査期間：9月中旬～11月中旬
- ・“環境マップ”づくりも軌道に乗り始めましたので参加大歓迎

2. 12月NO₂測定調査活動

- ・測定地点：自宅周辺および主要道路の混雑地点
- ・捕集管組立および配付：
日時：12月1日(日)13:30～15:00
場所：KERC・1F実習室
- ・24時間サンプリング：
12月5日(木)18:00～6日(金)24時間

・濃度測定：

日時：12月15日(日)13:30～15:30
場所：KERC・1F実習室

3. 環境モニタリング部会定例会

- ・日時：15年1月18日(土)10:30～12:30
- ・場所：横浜市市民活動支援センター4F第一研修室

・テーマ(予定)：

ツバメ、ジョロウグモ調査結果
12月NO₂測定調査結果
酒匂川探水隊活動
新入部会員紹介、その他

ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

ケナフ部員が携わる9月～11月までの活動について報告します。

1. 9月17日 定例会を兼ねて愛川繊維会館(レインポー)の和紙工房で愛川国際ソロプチミスト協会と合同でケナフ紙漉実習。

愛川国際ソロプチミスト協会の要請で愛川繊維会館の工房を利用して、ケナフの紙漉を実施しました。

参加者はケナフ部会員7名、愛川ソロプチミスト会員約10人、相模原ケナフ会員4人でした。繊維会館に設置されている本格的な道具を利用した紙漉経験は大変有益でした。(右写真)

2. 9月18日 環境センター主催「子供環境教室」についての反省会に参加(古沢、小川、荒谷)。

3. 11月1日 秦野市東小学校6年2組、3組約70人にケナフ、ケナフの紙漉の課程について1時間説明

をする(荒谷)。東小学校はケナフを畑に植えており、卒業証書をケナフで作成する為に頑張っています。

4. 11月22日 秦野市東小学校紙漉実践指導。

5. 11月23日 ケナフ部会例会・・・ケナフの刈り取り



ケナフの紙をホットプレートで乾燥している

エネルギー部会

部会長 北村 博子

活動報告

1. “親と子の楽しい省エネ教室” 後援
1) 第5回 “親と子の楽しい省エネ教室”
10月13日(日) 13時 - 17時
(財)省エネルギーセンター広報紙「省エネアンバサダー」の取材を受ける。
予約なしで、栃木(栃木エコサポーター)・川崎(かながわ環境教育研究会)からの取材参加者2名有り。
親子参加者無く、急遽 NPO 向けの教室となる。
- 2) 第6回 “親と子の楽しい省エネ教室”
11月17日(日) 11時 - 17時
2. 横浜市磯子区生涯学級「わたしの暮らしと環境」
“暮らしとエネルギー” 講師派遣(北村)
「エネルギーと地球温暖化」
「暮らしのエネルギー」
「家庭で出来る省エネ」
「地球温暖化に役立つ新技術」
「節電コンセント製作」等
3. 小学校総合学習・環境学習講師派遣(横浜市)
「考えてみよう・環境と生活・地球温暖化と省エネ」
地球温暖化とエネルギー消費に依る CO₂ 排出の関係を模式図を用いて説明
ワットアワーメーターに依る待機時消費電力の計測確認・理解と省エネへ
同じ明るさの白熱電灯と電球型蛍光ランプの

消費電力量の違いを見せ、エネルギーの効率的利用へ誘導

省エネ行動に誘導

4. 部会 11 月例会

11月10日(日) 14時 - 17時

第2回実践者養成講座修了者から菅沢、高田、吉川の3氏、部会参加

* 「エコいろはカルタ」見直し作業

・一部改訂

* 15年1月 - 3月活動予定確認・打合わせ

活動予定

1. 相模湖町 親子で考える「環境展」出展

1月26日(日) 9:00 - 16:30

2. 第7回 “親と子の楽しい省エネ教室”

日時: 2月2日 11:00 - 17:00

場所: かながわ県民活動サポートセンター 604室

3. 省エネ共和国サミット参加

2月6・7日(木・金)

4. 部会

・12月例会

日時: 12月15日(日) 14時 - 17時

場所: かながわ県民活動サポートセンター 701室

内容: * 15年度活動計画 検討

* 出前「省エネ学習」プログラム作成

* 1・2・3月活動予定 打合わせ

・1月例会

日時: 1月19日(日) 14時 - 17時

場所: かながわ県民活動サポートセンター 702室

内容: 12月例会検討課題、引き続き検討

廃棄物・リサイクル部会

廃棄物・リサイクル部会担当 石丸 博司

新部員紹介 7名の皆さん(10期終了した方です)

有賀 正明さん(横浜市磯子区) 小川 慎さん(逗子市) 川端 昌昭さん(大和市) 黒澤 宏さん(秦野市) 高田 重直さん(藤沢市) 原 順子さん(海老名市) 和田 瑛介さん(綾瀬市)

今後取り組んでいきたいことなど意見交換の場を持ちたいと思います。宜しく御願います。

メール・Faxでも連絡をお願いします。当面は下記のプログラムに取り組んでいます。

活動報告

「“ひと”と“環境”にやさしいまちづくり(エコライフの推進)」(地域社会の環境面の健康診断のための)質問紙の訂正と確認、今後の体力づくりと地域展開

第9回会合(11月6日)の報告

出席者: 和田さん(10期)・原さん(10期)・市

川さん(9期)・石丸(9期)の4名

主な論点: 質問紙の検証 約10名の方に記入してもらった結果(主に主婦の人達为中心)記入が面倒、言葉が難しい、質問が多すぎる、など多くの貴重な反応をいただきました。

文面、表現を根本から見直すことになりました。次回分担して持ち寄り検討することになりました。

活動予定(主な内容・課題)

- ・地域の健康診断(質問紙)の再構成とまとめ
- ・診断書の活用方法
今後の展開に向けて、
- ・地域での会合の持ち方
- ・地域での活動(事業者や行政との連携も含めて)
- ・目標設定
- ・ツールの活用(環境家計簿など)リーダー養成
- ・実施と評価について
- ・市民環境教育

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

各地域での展開

・行政や地域主体への働きかけ。担当と連携など多様。

第10回会合 11月26日 13:30~17:00

会場：えびな市民活動サポートセンター

第11回会合 12月9日 13:30~17:00

会場：えびな市民活動サポートセンター

第1会議室

電話 046-235-6835

「ひと」と「環境」にやさしいまちづくり。

エコライフの推進・予想される課題

例 「無駄を省いた暮らし」の実践・・・シンプルに暮らす
(賢い暮らし方・賢い消費者として、ゴミとの賢い付き合い方を進める)

「環境を汚さない暮らし」の実践・・・クリーンに暮らす
(賢い自動車・乗り物の利用、水にやさしく・健康にやさしい暮らしを進める)

「自然とともに生きる暮らしの実践」・・・ナチュラルに暮らす
(自然とふれあう暮らしを守りながら、暮らしの中に自然を生み出す/そして、心安らく暮らすの場をつくる)

「地域の産物を地域で消費する暮らしの実践」・・・循環社会
(食品は作った人の顔かきが見え、安心した関係をつくる暮らしを進める)

目標設定・具体的な行動計画・具体的な指針
事業者・行政の課題と連携 推進としくみづくり

2002/11/25

18

自然環境部会

自然環境部会担当 柳川 三郎

長い間、自然環境部会は休眠状態です。私としては丹沢山の現状に憂いをもっています。

自然環境について知識のある人、意欲のある人、

一緒にやっっていこうと思っている人、待っています。ぜひ一報を！

連絡先 柳川 三郎

TEL/FAX 0463-59-2000

e-mail sm-y@dab.hi-ho.ne.jp

会員の広場

スウェーデン・エコツアーに参加して！ 9期 市川 文子

9月26日ドイツ・フランクフルト経由でスウェーデンのアーランダ国際空港に着いたのはすっかり暗くなっていました。飛行機の窓から見下ろすストックホルムの夜景は暗く、道路の街灯が道なりにオレンジ色の光が点々と光っているのと車のライトだけでした。空港の滑走路面の誘導灯もシンプルであった事はまず大変驚きました。空港とストックホルムを結ぶ特急電車のエネルギーはグリーン電力でした。

タクシーを乗り継ぎ、97%は土に還る材料で建てられているエコホテルに着きました。部屋に入ると

照明は必要な所だけを明るくするスポット式のライト、バスルームは人を感知して自動点灯式の蛍光灯、水洗トイレは大小の水量が選べるバキューム式でしたので、ほんの少量で処理できるのには驚きました。これは是非日本でも取り入れられたらいいなーと思いました。この汚物もメタンガスや肥料のもとになり、また

生活の場のエネルギーとして利用されます。肥料は有機農場で使われ、野菜となって食卓に上がります。

このホテルには2泊しましたが、チェックアウトするまで風呂場のマットやタオルの交換は行われません。部屋にあったゴミ箱も直径40cm位の円柱で中心は燃やせるゴミを入れ、両側にそれぞれコーナーがついていて、プラスチック類を入れるものと、生ゴミを入れるものになっていました。宿泊客にも分別収集へのアピールになっていたことにとても良い考えだと思いました。

スウェーデンには100,000以上の湖があり、この水は飲み水や熱交換プラントで熱を取り出して、80位の湯になったものが暖房として地域の家をめぐり、夏には冷房として利用されていました。

国土の3分の1の森林は間伐材のチップをペレット状にして地域冷暖房システムの燃料にされ、その灰は必ず検査を行なって、何も検出されるものがない

ければ畑の肥料としてまかれていますので、時としてチェルノブイリの時のものと思われる放射能が検出される事もあるそうです。もう一つの使われ方はバイオガスのもとにも利用され、ガスコンロや車の燃料としても利用されています。スウェーデンの国性をうまく利用して、すごいなーと思いました。



「テーブルから土へ」循環型システム

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

そのスウェーデンにも1950年代末から1960年代初めにかけて産業排水が湖に流れこみ、水質汚染という大きな問題を抱えた時期があり、いち早く危機感を感じ取った市民の一人ひとりの考えから環境教育が始まり、1971年にストックホルムでニレの大木を切り倒して地下鉄駅を作る問題がきっかけで「環境革命」が始まり、ニレの木は残り、地下鉄の駅は少しずらして作られましたが、こんなことは、日本ではまかり通らないことですが、スウェーデンは市民の声が通るところにすばらしいと思いました。その当時の革命家が今では環境党や緑の党の党員として、国を動かすポストに就いて、21世紀に向けた人類の行動計画である“アジェンダ21”を真剣に受け止め、スウェーデン政府が自治体を経済支援するように

して、数年ごとにかかげられる環境目標に向かって政府、企業、自治体、学校、住民がそれぞれ環境教育を受け、心をひとつにして、持続可能な循環型社会を作っている事に対し、日本の政府も経済ばかりにとらわれず、早く環境問題に毅然とした姿勢で目標設定し、ルール作りをして、手遅れにならないうちにやるべきだと思いました。

今回、思い切ってスウェーデン環境視察に参加してみても隅から隅まで神経の行き届いたやり方を見て、手落ちのないやり方に大変感動しました。

この方法で日本は何年かかるかしら・・・と思いました。

歩道、自転車道も整備され、じゃまなガードやポールなど立っていないので街並みもすっきりして制限のある高さ、色づかいも守られて環境景観も大事にしている、本当にステキなまちでした。

『サロン・ドゥ・ヨコハマ』 の紹介

4期 菊地 清明

1996年1月26日横浜市内を中心に各種の市民活動をされている方たちが関内にあるシーメンクラブに集い一夜を共にしました。その中で、「日頃の活動の労いと情報の交換の場があればいい」という意見が出ました。私も以前よりサロンのような自由に意見交換ができる場を作りたいと思っていましたので早速この考えを実行に移し開設したのが『サロン・ドゥ・ヨコハマ』の始まりでした。以来毎月同

じ日に飲み会の形で続けてきました。

昨年迄はとくにテーマを決めずに意見交換的な集まりでしたが、田口汎氏から「誰かプレゼンターに問題提起をしてもらい、それについて皆で意見交換するようにしては」との提案があり、今年入ってから新しいスタイルで運営しております。

テーマとしては環境問題にとらわれず、政治、経済、教育、宗教等幅広く取り上げています。とくに会員制度は取らずに出入り自由を旨としておりますので、興味のある方は是非ご参加ください。

今年取り上げた内容を下表に示しました。

(筆者連絡先 TEL/FAX 045-894-3869)

	テーマ	プレゼンター
1月	文明は衝突するのか	田口汎 (本会会員)
2	児童の商業的性的搾取に反対する世界会議	西尾留美子 (ふれきしびる代表)
3	宗教は人を救えるのか?	菊地清明 (本会会員)
4	環境ビジネス振興の課題	上野和雄 (本会会員)
5	中田横浜市長誕生のバックグラウンド	皆川昭一 (栄区の環境を守る会顧問)
6	10年後20年後にどのような日本を選ぶのか!	田中正直 (人類生き残り研究会主宰)
7	日本が抱えている問題は何か	
8	環境教育は最優先課題	二村文枝 (環境を考える会代表)
9	地域通貨 - 市民社会への道 -	田口汎 (本会会員)
10	国政から見た環境問題	佐藤謙一郎 (民主党衆議院議員)

地球っ子ひろばを始めて

7期 佐藤 洋徳

はじめに「地球っ子ひろば」とは何なのかということから簡単に説明したいと思います。7期の齋藤美代子さん、山口洋子さん、土屋智絵さん、私の4名(地球っ子スタッフ)とその他多くの協力者の方たちで環境科学センターを利用して行なっている小学生向けの環境教育です。

「環境教育」難しそうなイメージですが、日常生活

で不要になったものやゴミ(ペットボトル)などを材料として遊び道具、観察に使う道具を作ったりしています。工作のほかに、環境問題をテーマにしたビデオ鑑賞や山口さんが読んでくださる紙芝居などを行っています。

私が活動に参加したきっかけは、環境学習リーダーの講座を受け学んだことを実践しないまま忘れてしまい、学んだことが無駄になってしまうのではもったいない、何かこの学んだことを生かしたいという思いからでした。

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

活動を始めてみて、意外と大変なところは、当日の準備や子供たちへの対応です。一回行なうごとに自分なりに反省し直さなければならないことが数多く出て次回はこうすればうまくゆくだろうか、こうゆうところに注意しようなど試行錯誤の連続です。

「地球っ子ひろば」をはじめてよかったと感じる瞬間は、子供たちが「今日は、楽しかった。また来たい。」と言ってくれたときで、それがすごくうれしく、「はじめてよかった。もっと色々なことを体験させてあげたいな。」と思い、やる気が湧いてきます。

梅雨の晴れ間 - 自然観察

4期 永野 武司

海老名市の植物同好会「一輪草」(代表・谷名幸さん)の宿泊研修会が7月3、4日、栃木・群馬両県にそびえる白根山(日光白根山)山ろくと、日光・戦場ヶ原で行われました。この会は海老名市に住む主婦の皆さんらの会です。私は元小学校教師で、数年前まで海老名市に住んでいた関係で講師を務めています。

県内での自然観察会のほか、年に1回は県外で泊りがけの観察会をしています。毎年、この時期に行われますが、過去3回とも行き先は違っても、現地は奇跡的に梅雨の晴れ間に恵まれました。今回もまた、絶好の自然観察日和で、参加者43人は、深山の澄んだ空気と北関東の山々や、青く澄んだ湖など大自然の美しさを満喫しました。

針葉樹林の奥の日陰には、まだ雪も残っていましたが、オオカメノキ、シロバナノヘビイチゴなどの

このことは、自分にとってもプラスになっていると感じ、これからもスタッフの皆さんと協力して、がんばっていききたいと思います。

ここでお知らせです。

一緒に「地球っ子ひろば」を手伝ってくださるスタッフを募集しています。

ゲスト講師も募集。(ジャンルを問わず内容はどんなことでも結構です。子供たちにいろいろ教えてあげてください。)

連絡は、上記の地球っ子スタッフ4名のいずれかへお願いします。

かれんな花と出会いました。戦場ヶ原では、珍しいラン科のショウキランを観察することができました。数も少なく、クマザサなどに隠れて観察する機会の少ない花だけに、皆感激していました。

乾燥が進み、湿原の面影が薄れつつあると言われる戦場ヶ原ですが、湿原の植物を見ることができ、よかったと思います。

(注：本稿は神奈川新聞にも掲載されました。)



掲示板

市民環境活動報告会

第9回市民環境活動報告会が下記の通り開催されます。K・リーダー会の会員をはじめ、多くの方の発表があります。

詳細は後日お知らせいたします。

月日：2003年2月23日(日)

場所：県民サポートセンター

当会リーダーの講演会

テーマ：辻堂からみる環境

「地球温暖化と私たちの暮らし」

日時：12月3日(火)、10日(火)14:00~16:00

場所：辻堂公民館

講師：渡邊吉一氏(5期、環境カウンセラー)

申込：辻堂公民館へ電話(0466-34-8661)

編集後記

前回の会報No.28で「今、役員会で議論されていること」というタイトルで、環境教育・学習部会の新設について議論されていることを紹介し、そのことについて会員の皆様からのご意見を募りました。しかし、残念ながら全く反応がありませんでした。

なぜこのような結果になったのか、新規プロジェクト担当として、考えざるをえません。問題提起の仕方が判りにくかったのか、あるいはこのようなテーマには関心が薄いのか思いあぐねています。

広報部 木本 光昶

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 清水 幸夫

編集人： 広報部長 森 千春

TEL 0468-57-0835 FAX 0468-57-0837

発行日： 2002年11月30日